

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：11501
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2019
課題番号：16K13144
研究課題名（和文）縮小社会における”地域版MICE”モデルの考察

研究課題名（英文）MICE tourism

研究代表者

高澤 由美（Takasawa, Yumi）

山形大学・大学院理工学研究科・助教

研究者番号：20509054

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究を通して縮小社会における地域版MICEでは、食や景観、環境や立地など地域資源をMICEリソースとして多様な場面で活用し波及効果を高めること、地域の優位性を明確にして地域、主催者、そして参加者がその価値を共有し身の丈にあった特長あるMICEイベントを誘致・開催すること、が重要であることが導き出された。オーストリアや山形の事例からはMICE会場として施設や設備などハードの整備に注力することではなく、ソフトを含めて地域での滞在をトータルでマネジメントすることが地域の価値向上につながることを示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

MICEに関する研究は国際的な都市間競争に関する支援や誘致に対するノウハウは蓄積されているものの地方中小都市レベルでのモデルは示されることが少ない。本研究が示した事例とその分析結果は縮小社会を見据えた地域版MICEの形成に資する学術的な意義がある。そして本研究で導き出された示唆は、多様な地域に発展的に応用可能なエッセンスであり、持続可能な地域づくりに貢献することが期待できる。

研究成果の概要（英文）：Through this study, it was suggested that regional resources such as food, landscape, and environment should be utilized as MICE resources in various situations to increase the ripple effect, and regional characteristics should be clarified to attract and hold MICE events of their own size by sharing their values among regions, organizers, and participants. From the cases of Austria and Yamagata, it was proven that they tried not to focus on the maintenance of hardware such as facilities and equipment as a mere MICE venue, but to produce and manage the total stay in the region including software.

研究分野：地域政策・観光

キーワード：MICEツーリズム サステナビリティ 地域活性化 環境負荷低減

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

MICE ツーリズムへの関心は、世界各国で高まっており、グローバルな都市間競争が激化している。MICE はいわゆるレジャーを目的とするツーリズムと比較すると、滞在日数が長く地域経済への波及効果が高いことや、開催の数年前から計画される事例が多いことから、災害や経済状況の変化等の外的要因に左右されにくいなどの特長があるとされる。人口減少や高齢化の問題に直面する地方都市では地域活性化を期待して交流人口の拡大に取り組む自治体も多い。なかでも MICE は経済効果に期待できることから一部の地方都市では MICE の恩恵に与ろうとコンベンション施設の建設などの整備を進めている。しかし財源や人材に限られ今後縮退していくことが予想される地方都市において新たな施設を整備することはその維持や稼働率の面でリスクもはらんでいる。地方中小都市においては、無理な施設の整備や誘致ではなく、地域資源を有効活用し、地域への波及効果を高めるしくみを作りその効果を最大化していくことが持続可能な地域づくりにつながっていくのではないだろうか。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域資源を活用した MICE の事例分析を通して、持続可能な地域形成を念頭においた好循環のしくみとしての“地域版 MICE”モデルを提案することである。地域でこれらのしくみを展開することにより、非観光目的の来訪者の受け入れ態勢が整えられ、ひいては地域の特色にあう MICE 誘致のアドバンテージにつなげるねらいがある。

本研究が目指す到達点は、(1) 地方中小都市における MICE ツーリズムの動態を、統計調査及び事例調査から実証的に明らかにし、(2) 地域への影響力を、経済的・社会的・環境的な視点で多角的に分析するとともに、(3) それらの潜在力を最大化するしくみを検討することである。

3. 研究の方法

(1) JNTO の統計データを活用し、東北地方における国際会議の状況について分析するとともに、山形県内で開催された国際会議イベントにおける来訪者を対象にアンケート調査を行い来訪者の実態を明らかにする。

(2) オーストリアと日本の地方都市における MICE 事例分析を実施し、地域への波及効果を最大化するしくみを検討する。

オーストリアは欧州における主要な MICE デスティネーションであり、また地方における開催実績が多いという特徴がある。そこでオーストリアにおける MICE 政策の展開の経年変化を整理し地方開催が多い背景を整理する。またオーストリアの特徴を表す事例としてチロル地方における環境負荷低減を目指す Green Meetings という取り組みに着目し事例分析を行った。他方、日本では地域資源である温泉を活用した MICE の事例調査を山形県で行った。いずれも文献調査、現地におけるフィールド調査、マネジメント組織等ステークホルダーインタビュー調査、及びアンケート調査を行いデータを収集した。

4. 研究成果

(1) 地方中小都市における MICE ツーリズムの特徴 東北地方のケーススタディ

東北地方における国際会議の基礎的な情報を整理するために国際会議の開催実態を JNTO の統計データに基づいて分析した。その結果、国際会議の件数が増加傾向にあること、開催日数が全国平均と比較すると長い傾向が見られること、県庁所在地、および大学が立地している自治体での開催が多いこと、そして東北地方においては小規模の会議が大半を占めるなどの特徴がわかった。

また国際会議の参加者行動の特徴を把握するために、山形県内で開催された国際会議への参加者を対象に実態調査を行った。その結果、地方都市におけるコンベンションでも、大都市での会議同様に、滞在、土産購入、飲食等に関する消費額は一般的な観光目的の来訪者よりも高い、

参加者は時間的制約や交通手段の欠如などにより地域が期待するほど観光行動は積極的に行っていないということが明らかになった。

以上のような特徴を踏まえると地方において MICE の波及効果を高めるためには、拠点となる会場だけでなく、地域の飲食店等との連携を一層強化することや、短時間で地域の観光を楽しむことのできる交通手段を含めたコンテンツの開発などが重要であると考えられる。

(2) 事例分析

オーストリアの場合

・オーストリアでは、首都ウィーンだけでなく、地方でも多くの MICE が開催されている。その背景には、地方での開催を支える体制としくみが構築されていることがわかった。Austrian Convention Bureau は国内のコンベンション組織をつなぎ情報等を共有するだけでなく、学びの場をつくることで相互の相乗効果を高めることを目指し、結果として地方での誘致開催が増加し MICE 産業への投資額が増えるなど国全体の成長につながっている。このような取り組みが各コンベンション組織の力を育み、地域の付加価値を高めていること推測される。

・オーストリアでは MICE 開催件数の増大とともに、環境負荷の増大が問題となり、2010 年環境

負荷低減を目指す MICE プログラム Green Meetings(以下 GMs)の枠組みがつくられた。

・本研究ではオーストリアにおける MICE の特徴を表す GMs に着目した。GMs の創設の背景や枠組みを整理し、GMs を展開している組織の実態を明らかにするとともに、地方都市における事例を分析した。本研究から得られた知見は以下の通りである。1)GMs は環境的・社会的基準を設定するガイドライン UZ62 によって体系づけられている。GMs を認定するライセンサーにも厳しい基準が設けられている。GMs の認定・開催には補助金等は設定されていないにもかかわらずライセンサーや GMs の開催は増加している。2)GMs の開催は、ライセンサーがイベントの内容を勘案して GMs としての開催を主催者に提案するケースが多く、認証に係るコストも主催者ではなくライセンサーが通常業務のなかで負担するなど、GMs の開催にはライセンサーが大きな役割を果たしている。3)チロル地方を拠点とするライセンサーはいずれも会議施設を所有しており、その会場における MICE イベントをマネジメントしていることが GMs 開催を容易にしていると推測される。4)GMs を多く開催してきたアルプバッハでは定期的に開催される学会会議を契機に GMs が開催されるようになった。地域資源を活用し地域全体が環境負荷の低減に配慮されておりアルプバッハでの滞在そのものが、参加者が意図せずとも、環境負荷低減に配慮した体験になる仕組みができている。「環境に配慮した会議開催、地域での滞在」を強みにして地域の価値を高めている。5)チロル地方の事例からは、GMs の枠組みなど環境基準を設け仕組みが整ってしまえば多大なコストをかけることなく環境負荷の低減に配慮した MICE イベントが可能になることが示唆される。GMs は、主催者、参加者、スポンサー、そして地域社会の間で共有できる付加価値となり地域の魅力を高めている。

山形の場合

・山形県内では、地域資源である温泉旅館・ホテル(以下、温泉施設と記す)を活用した国際会議を開催し、温泉 MICE として積極的にプロモーションを展開している事例がある。国際会議の受け入れが可能な中・大規模旅館は、婚礼の減少や旅行形態の変化から大型のイベントや利用客の減少に直面しており、従来とは異なるターゲットとして国際会議をはじめ MICE の受け入れが新たなビジネスモデルにつながる可能性があると考えられる。また MICE の主催者や参加者にとって温泉施設自体がユニークベニューであり特別感や日本文化を感じながらワンストップで会場と宿泊施設にアクセスできることはメリットになると推測される。

・山形県の村山地域(山形市周辺の7市7町)では平成30年度に50名以上が参加するコンベンションが76件(内国際会議は5件)開催され21,656人が参加している。この年のコンベンション開催の経済波及効果は22億円と試算されており、経済的インパクトが大きいことがわかる。観光庁の統計によると国際会議は MICE の中でも経済効果が高く、このような観点からも、温泉施設を活用した国際会議はまだ開催実績は少ないが、地方における新たな MICE のモデル事例の一つとして成長することが期待されるのではないだろうか。

・そこで地域活性に資する MICE の取組として温泉施設における国際会議の事例を分析した。その結果、1)山形の事例では、温泉施設における国際会議開催は主催者の希望がきっかけであり、これを機に山形コンベンションビューローが温泉 MICE として誘致をはじめた。2)開催実績は2010年から9件で、規模は100名未満の小規模なものが多く、外国人の参加率が高い。3)受け入れ自体に大きな問題はなく会議内容に応じてフレキシブルに対応している。食事やレセプション会場、誘致活動において地域資源が活用されている。4)会議の主催者は温泉施設をユニークベニューとして捉え、開催地決定の大きな要因となっている。また評価はサポート体制や温泉利用に関して高く、他方でアクセスや周辺環境への評価は比較的低いことを明らかにした。

まとめ

本研究を通して縮小社会における地域版 MICE として 食や景観、環境や立地など地域資源を MICE リソースとして多様な場面で活用し波及効果を高めること、地域の優位性を明確にして地域、主催者、そして参加者がその価値を共有し身の丈にあった特長ある MICE イベントを誘致・開催すること、という示唆が導き出された。オーストリアや山形の事例からは単なる MICE 会場として施設や設備などハードの整備に注力することではなく、ソフトを含めて地域での滞在をトータルでマネジメントし地域の価値を高めようとしていることがわかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 高澤由美	4. 巻 52.3
2. 論文標題 欧州における観光地域づくりを目的とする組織の活動内容の変遷とその特徴に関する考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 都市計画論文集	6. 最初と最後の頁 582-587
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高澤由美	4. 巻 11
2. 論文標題 地方都市における地域資源を活かしたMICEの可能性に関する考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域活性研究	6. 最初と最後の頁 121-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高澤由美
2. 発表標題 東北地方において開催された国際会議の特徴に関する考察
3. 学会等名 日本都市計画学会東北支部
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高澤由美
2. 発表標題 地方におけるMICE ツーリズムを支える体制・しくみに関する考察
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高澤由美
2. 発表標題 地域資源を活用した地方都市におけるMICEモデルの可能性に関する考察
3. 学会等名 日本都市計画学会東北支部
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高澤由美
2. 発表標題 欧州における環境と観光の共生を試みる小規模自治体の取組に関する考察
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高澤由美
2. 発表標題 地方にとってのMICEの可能性
3. 学会等名 電気学会調査専門委員会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高澤由美
2. 発表標題 MICE 開催が地域へ及ぼす波及効果に関する一考察
3. 学会等名 日本都市計画学会東北支部
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

山形大学工学部建築・デザイン学科高澤研究室ホームページ
<https://takasawa96.wixsite.com/mysite>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----